
初恋

憂鬱姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋

【Nコード】

N8882K

【作者名】

憂鬱姫

【あらすじ】

紅実は、名門高校の紅河高校に合格！！

しかし、紅実は入学早々のドジっ。

けれど、ある男の子の出会いはそのドジによって始まった！！

初恋（前書き）

あくまでも、オリジナルです。

初恋

初恋とは何なのか．．．

それ以前に恋とは何なんだろう？

分からずに恋したあの時。

甘酸っぱいような 苦しいような気持ちになったり

そんな私をそんな風に悩ましたのがあいつで

そんな奴に恋したのが私。

なぜ恋したのだろう？

友達だったあの日から一変した 私の思い。

いつもは 普通に話していたのに

それに築くとなぜか 話しずらくなる。

ほかの子と話していると やきもちを妬いてしまう。

そんな私はそんなあいつに最大の恋をした。

私は、この小説の作者の憂鬱姫です。

なぜ、憂鬱かといいますと．．．

恋って、憂鬱な事多くないですか？

まあ、簡単に言えばそれに関連性があると言う訳ですね．．．

初恋（後書き）

はい、『初恋』という題名の小説を書かせていただきます。
私も、ドジなので漢字も間違える場合がありますが
暖かい目でみてやってください・・・。
とりあえず、よろしく願います！！

第1章 出会い×ドジ（前書き）

第1章目です。始めが重要なので頑張って書きます！！

第1章 出会い×ドジ

初恋 それはよく分からない気持ちにあふれる時

私は そんな気持ちになって

君に恋したんだ

~~~~~

春になった。私、荒野 紅実  
は名門高校に進学しました！。

えへへへへっ

紅実、胸に期待を膨らませながら  
入学式に挑んだ。

受付の人に、1枚の紙を渡され

「この番号の椅子に座ってください。」と  
言われて、自分の番号を探した。

『えーっと、15番．．あ、ここ．．』

何かに引っかけたかと思いつきりこけた。

運悪く、おでこに衝撃な痛みが走った。

『痛い．．．』

入学式早々こけるなんて．．恥ず

立てろうとしたその時、紅実の前に陰がかかった。

そして、手を差し伸べこう言った。

「大丈夫か？」

『なんとか．．』

その子に、礼を言おうとし顔をあげたら

そい子は、くすくすと笑う。

えっ、私なんか可笑い？

近くにいた子が貸してくれた鏡で見ると  
ぎゃっ・・・髪がボサボサで顔も・・・

「はい、くしっ」また、借りた。

急いで髪を直して自分の席の戻った。

もう、入学早々ドジっちゃたよ。。。。

どうしよう・・・変な目で見られたwww

あまりにも、ショックが大きく落ち込んでいく  
紅実。

入学式も終わり教室に行くことになった。

『うちって、何組だっけ??』あきらかに、  
紙をなくしたようだ。

そしたら、「君は、5組。」と誰かに言われた。

『ありがとう・・・あっ!!』

その人物とは？



## 第1章 出会い×ドジ（後書き）

次回もお楽しみにー

## 第1章 出会い×男の子

『ありがとう．．．あっ!!。』女の子は俺に指を刺す。  
あ、そういや朝会ったよなこいつに．．．

「人に指をさしたらダメだよー??」刺していた指を  
俺は優しく下ろした。

すると、勢いよく言ってきた。

『朝、なんで私のこと笑ったの!?!』

あー、あれね。。。。

だって、笑うしか出来ないだろっ

ライオンの鬣みたいな髪してたし（笑）

『ちよつと、なんでまた笑ってんのよ!!（怒）』

「ん?あー、思い出し笑い．．．クスクス」

腹痛いしwww

『もー、笑ってばっかりしてないでなんか言ったらどうよ!!』  
完全に切れている女の子。

「んー、じゃあ名前教えてくれたら笑うのやめる。」

そっぴや、名前も聞いてなかったしなっ

『じゃあ、あんたの名前も教えてよねっ』

「分かった分かったっ、俺は荒野 吾妻そっちは?」

『あ、私?私は、荒野 紅実。てか、一緒の苗字だねー（笑）』  
確かにwww

「てかさー、皆教室行ってるけど。。。」

『えっ、まじで???』

「急ぐよ」

俺はそういつて、紅実の手を引っ張り走った。

『ちよつ．．．速い!!』ペースを落とす暇もない。

「仕方ねえーなっ、よいっしょ」

『えっ、なんでおんぶなの!?!』

紅実の言葉を聞く暇もなかった。

## 第1話 出会い×ハプニング

紅実

荒野 吾妻はいきなり私をおんぶした。

『ちよつ、止まって。』必死に、降りようとするがスピードが速すぎて降りれなかった。

体育館からは明らかに遠い廊下。私たちは、風を切るように廊下を走っていた。

何分ぐらい経っただろうか？いきなり、私を降ろした。

「着いたよ。じゃ、またね」

荒野 吾妻は、スタスタと教室に入って行った。

私も、教室に入って席に着いた。荒野 吾妻のおかげで遅れる事もなかった。

（後で、お礼言わなきゃ）

吾妻は私の席の前。いつでも、お礼は言えるのだからなかなか言い出せない。

ガラッと先生が教室のドアを開け生徒の前に立っていった。

「えー、ご入学おめでとう！！先生は、20半ば。本校では、一番若い！！だから、先生も君たちの相談に

乗れるから、気軽に話してくれ！！さっそくだが、委員決めをしたいと思う。まずは、学級委員から。

やってみたい人はいるかー？」

皆誰もが、やりたくないという感じの空気。先生は、ため息をついて言った。

「しょうがない子達だなー。じゃあ、1番と2番が仮学級委員にな

つてもらう。いいか？」

『えっ、なんですかその決め方!!』私は、立ち上がった。

「仮だけだから、いいだろう? まあ、希望がいたらすぐ変わるからいいだろう?」

仮だけならいいか・・・。

『分かりました・・・』しゅしゅ、仮学級委員になった私たち。

「じゃあ、さっそくだが今日は仕事があるからな。放課後残るんだぞ!!」

し・・・仕事?? 聞いてないよ、そんな事!!

「じゃあ、今日はこれで解散!! さようなら」

皆一斉に、教室を出る。私も、人ごみに紛れて帰ろうとしたら・・・  
「コラッ、作業があるっていったらどう? まずな、教科書とプリントを皆のつくえに置いて

プリントは5枚ずつホッチキスで留めるんだ。まあそれだけだから頼んだぞ!!」

ドサツと、教科書とプリントを渡して先生は教室を出た。

多いしww、もういや!! あれ、荒野 吾妻がいない。。。

「あいつ、逃げた??」周りを見渡しても誰もいない教室。

「ちえ、いいもん。一人でやってやる!!」

半分やけくそで、作業を始めた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8882k/>

---

初恋

2010年10月13日19時22分発行